



◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通り表彰し、關係地方廳に其の傳達方を依頼せり。

△昭和十七年七月十日

表彰狀 一等功績章 三ノ組木杯

山形縣道路工手 荒井善兵衛

同 佐藤貞一郎

同 富樫信藏

同 木村一郎

表彰狀

山形縣西置賜郡豐原村道路愛護會

同縣北村山郡大石田町道路愛護會

◎特別會員並ニ評議員委囑

内務省警保局長、同地方局長及北海道廳長官、兵庫縣知事、愛知縣知事交渉したるを以て左の通特別會員並に評議員を委囑した。

内務省警保局長 三好重夫氏

同 地方局長 古井喜實氏

北海道廳長官 坂千秋氏

兵庫縣知事 成田一郎氏

愛知縣知事 雪澤千代治氏

◎内務省委員

前號内務省委員中に左の通追記す。

相川勝六

◎丹羽氏行氏

丹羽氏は慶應三年十二月二十日を以て京都府

葛野郡朱雀野村に生まる、明治十五年十二月二十七日年齒僅に十六歳を以て京都府雇に採用せらる、同二十七年三月京都府屬となり同二十九年十一月京都府紀伊郡々書記となり同三十四年八月再び京都府屬に轉じ大正十二年一月病氣の爲依願免官となりたるも同年七月京都府道路主事に任ぜられ昭和十七年七月十九日現職中死去せらる、氏は忠實勤勉に見る性格の人物、在職實に五十有三年に及ぶ。

◎宮城長五郎氏

元司法大臣宮城長五郎氏去六月二十五日逝去せらる。

◎本會幹事小島效

本會幹事小島效は本年六月辭職したるを以て本雜誌編輯者發行者を幹事平井長成に變更の儀五月三十日を以て内務大臣より許可の指令があつた。

◎内務省土木試験所談話會

第二百三十一回技術談話會話題 昭一七七、一七年後一、三〇

一、道路除雪に關する一試験及び交通對策 村上 技師

二、含砂率簡易測定法に就て 佐藤 技師

三、北支の國土建設 技術院參技官 佐藤寛政氏

四、北支技術の性格 藤井 所長

◎竹筋コンクリート 河村 協著

今や支那事變は遂に滿三年を經過し、世界的大動亂の渦中に於て、大東亞の新秩序建設といふ未曾有の大事業に邁進しつつあるの秋物資需給統制は愈強化せられ、就中軍需的重要資材たる鐵鋼は極度の制限を受くるに及び、其の好むと好まざるとに拘らず各地に竹筋コンクリート構造物が實現されつつある。

竹は我國に特別豊富に恵まれてゐる無盡藏とも稱すべき有難い天與の資材である。之を研究し利用に及ぶことは現時重大國策遂行上特に必要なるは勿論、假令戰時にあらずとも、國産材料愛護の爲經濟的施設の爲、是非其必要なことに信ずる。然るに竹筋コンクリートと云へば多くの技術者により冷眼視されつつあり纏つた書籍は一つもなく各所よりの欲求は日に増し多きを數ふに至つた。紀元二千六百年記念として大膽にも本書の上梓を決した次第である。著者は緒言で述べられて居る。而して本書は章を分つことと第六章曰く總論曰く竹筋コンクリート曰く竹筋コンクリート梁試験報告曰く竹筋コンクリートの公式曰く竹筋コンクリート版橋曰く硬化竹筋と而して最後に時局下の土木工事實例をかゝげ以て竹

筋コンクリートの利用價值を述べられて居る、斯界に於て見逃す

ことの出来ない良著作と謂ふべきである。(凡生)

◎市政概要 (東京市役所昭和十六年版)

市の沿革行政組織、財政の現状、記念事業時局對應事業市政普及事業東京市史編纂事業、統計事業、町會及隣組、都市計畫、教育施設厚生事業、經濟施設、土木事業、港灣事業、上水道、下水道、電氣事業、區政等の各項目に涉り全般に記述せるもの東京市行政の概括的知識を得んと欲する者に取りて適切なる文獻であらう。

(凡生)

◎新刊圖書雜誌 (交換寄贈)

○鐵道之研究 (七月號)

○河川 (第一卷六號)

○石油時代 (六月號)

○土木學會誌 (第二八卷第六、七號)

○都市問題 (第三五卷一號)

○榑崎敏雄氏リ(交通上より見たる南方都市)

○警察協會雜誌 (六、七月號)

○道路 (六月號)

(長瀬新氏低廉なるコンクリート鋪裝)

○斯昆 (六月號)

○汎交通 (六月號)

○電氣通信學會雜誌 (第二三一號)

○大阪商工會議所月報 (第四二二號)

○東大陸 (七月號)

○土木工業 (第四卷第六號)

○セメント界彙報 (第四二二號)

○三田學會雜誌 (四月號)

○水道協會雜誌 (第一一〇號)

○土木滿洲 (第二卷三號)

○土木學會工事請負制度改善研究委員會意見書

○觀光 (第二卷六號)

○土木雜誌 (第一八卷六、七號)

○大大阪 (翼賛市政の發足號—第一八卷七號)

○清和 (第九卷六號)

○港灣 (第二〇卷七號)

○企鵝 (第五卷一號)

○道路 (六日號長瀬新氏「低廉なるコンクリート鋪裝」七月號第一回東亞道路技術實業特輯號)

○法律時報 (第一四卷七號)

若葉吟社詠草

枯草に集える蠅の暑さかな	凡
草いぎれ故郷の母の眼に浮び	同
水静か蛭おもしろく泳ぎける	静
馬小屋の手入れ忙しや草いぎれ	同
登りつけば眞下の峯に雲湧きぬ	農
青蛭や水田の雲を泳ぎ渡る	同
波音も遠く暮野や草いぎれ	静
川蒸汽騰けの汽笛や寢莫産巻く	同
廣野ゆく兵馬聲なし草いぎれ	露
禿頭を拭ひもあへぬ暑さかな	同
登山次ぐや日本男子意氣こめて	翠
暑き夜や戦地を思ひ書く便り	同
風涼し富士見ゆる庭に寢莫産敷き	淺
毒消賣の端居に語る暑さ哉	同
○ 野月暗蛭の卵の孵りけり	野狐禪